

AIA-CL300導入による基礎的検討

(株)兵庫県臨床検査研究所

平松聖史

【はじめに】

不妊治療の際に行う血液検査は、主に身体の中で分泌されているホルモンの種類や量などを調べます。これらによって、卵巣機能の状態や排卵が正常に行われているかなどを調べる事が重要になります。今回、新規開業クリニックが院内検査目的で AIA-CL300 を購入しそれに伴い当社使用機器との比較検討を行い、クリニックで看護師が問題なく使用できるかの検証を行いましたので報告します。

【新規開業クリニックでの問題点】

クリニックには検査技師が在籍しない為、機器の使用は看護師が行う為、検査についての運用や検査の実施について簡単にできる方法を考える必要がある。

【AIA-CL300 について】

処理能力:最大 30 テスト/時間

同時測定項目:最大 6 項目

検体セット数:最大 8 検体

血清吸引量:5~50 μ L(項目により異なる)

測定原理:化学発光酵素免疫法(CLEIA)

【院内実施項目】

婦人科関連:エストラジオール(E2)、プロゲステロン、黄体刺激ホルモン(LH)、卵胞刺激ホルモン(FSH)、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)、プロラクチン、テストステロン

【評価項目】

測定項目の性能評価、機器操作性、機器保守操作性、安全性の調査について評価を行う

【性能評価(相関性)】

良好な相関性が得られた

【機器保守操作性】

- ① 保守点検の実施項目が多い
- ② 保守操作では簡単な操作方法は表示されるが、看護師が使用するのであれば細かな手順は取扱説明書を見ないとできない

【まとめ】

今回、不妊治療目的での血液検査項目を院内実施するという事で、検証、検討を行った。検査は簡便で問題無く実施できるが、一部機器保守については検査技師では普通であることが看護師の方には難しい事が多くあり考えさせられた。できるだけ全ての操作が簡便にできるよう工夫し案内した。クリニックでは満足して使用していただくことができた。今後はこの経験を活かして業務に取り組んでいきたい。